

# 事業団職員大募集

「私たちと一緒に働きませんか」

▶現在募集中

嘱託職員

嘱託栄養士、嘱託調理員、調理補助



各職ともに、  
早朝勤務可能な方  
歓迎

お問い合わせ先

社会福祉法人名古屋市総合リハビリテーション事業団  
総務部総務課 採用担当  
〒467-8622 名古屋市瑞穂区弥富町字密柑山1番地の2  
電話番号 052-835-3811

最新の募集情報、待遇等の詳細は事業団ウェブサイトをご参照ください。

事業団ウェブサイト <http://www.nagoya-rehab.or.jp>



事業団公式Twitter

名古屋市総合リハビリテーション事業団@公式 ➡ @nagoya\_rehab

## 事業所案内

・名古屋市総合リハビリテーションセンター

・福祉スポーツセンター

・障害者就労支援センター めいりは

〒467-8622

名古屋市瑞穂区弥富町字密柑山1番地の2

電話：052-835-3811 FAX：052-835-3745

・瑞穂区障害者基幹相談支援センター

・地域活動支援センター つきみがおか

〒467-0035 名古屋市瑞穂区弥富町月見ヶ岡5

NTT西日本八事ビル1階

電話：052-835-3848 FAX：052-835-3743

なごや福祉用具プラザ

〒466-0015

名古屋市昭和区御器所通三丁目12-1

御器所ステーションビル3F

電話：052-851-0051 FAX：052-851-0056

名古屋市障害者スポーツセンター

〒465-0055

名古屋市名東区勢子坊二丁目1501番地

電話：052-703-6633 FAX：052-704-8370

季刊

社会福祉法人  
名古屋市総合リハビリテーション事業団

# オレンジロード

ORANGE  
ROAD

2020年  
秋号  
vol.26



事業団公式マスコットキャラクター  
リはみん

## INDEX

- ◆就職見学会
- ◆介護ロボプラットフォーム構築事業
- ◆上肢リハビリテーション(ロボットリハビリ)に関する臨床研究
- ◆(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会出向 近況報告
- ◆新型コロナウイルス感染症対策
- ◆募集・事業所案内

発行：季刊オレンジロード編集委員会



## 事務・ 社会福祉職の 就職見学会を 開催しました



6月15日、22日、23日の3日に向け、全7回の日程で就職見学会を開催しました。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、学生の就職活動、企業側の採用活動双方に大きく影響が出ており、採用スケジュールの見直しを迫られた企業も多いようです。当事業団も、例年のように大勢集まった就職説明会の開催を見送り、少人数での見学会という形式で実施しました。オンライン上では、どうしても伝えきれない事業団の魅力について、学生の方にお届けできたと思っております。

今回の新型コロナウイルス感染症の流行を受けて、各企業の合同説明会も軒並み中止、学生との対面回数を極力減らすように動いています。先が見えない中での就職活動は学生にとっても不安が大きく、対する企業側も新たな採用活動の様式を模索しながらの状況です。

一方で、悪いことばかりでもなく、オンラインでの採用活動を見直す機会になったり、新しい採用ツールなども多く登場してきています。事業団としても、さまざまな情報をキャッチしながら今後の採用活動に取り組んでいきたいと思っております。



今後の  
採用活動にも  
注目!



厚生労働省 介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム構築事業

## ニーズ・シーズ連携協調協議会へ コーディネーターとして継続参画します



### 介護ロボットプラットフォーム事業が始動

令和2年度、厚生労働省は効率的な人員配置等の政策的課題の解決や、企業による介護ロボットの開発促進を目的に「介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム構築事業」で全国11拠点の相談窓口と6カ所のリビングラボを設置しました。この事業は、拠点の相談窓口がワンストップ対応し、リビングラボが中心となり、開発

企業に対して実証フィールドを提供し、エビデンスデータを蓄積し、介護ロボットの開発・普及を加速化する事業です。名古屋市総合リハビリテーション事業団でも、実証フィールド施設として本事業に協力するよう施設登録をしました。(詳しくは、www.kaigo-pf.comをご覧ください)

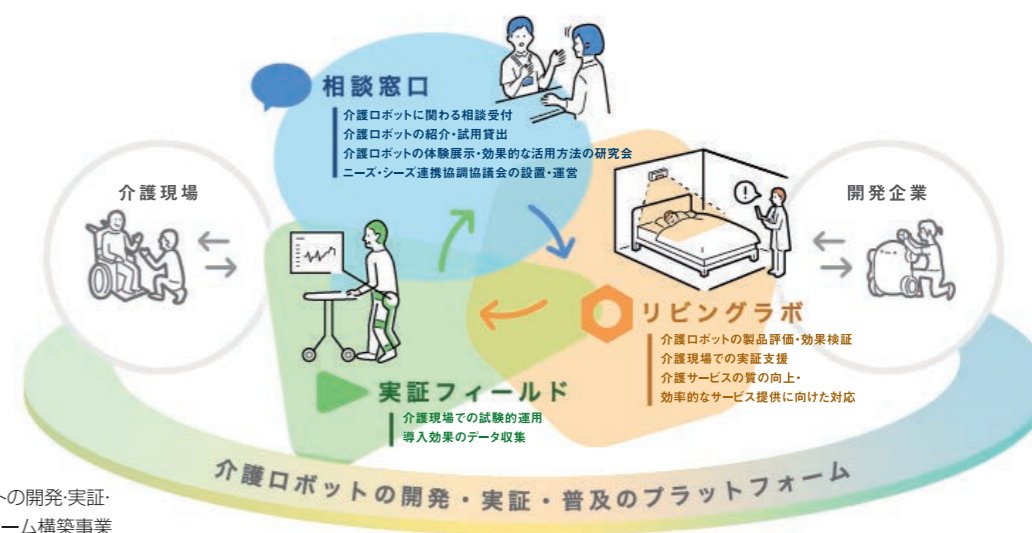
### 介護ロボット ニーズ・シーズ連携協調協議会事業が介護ロボットプラットフォーム構築事業に統合

当事業団は一昨年、「介護ロボットのニーズ・シーズ連携協調協議会事業」のシーズ側プロジェクトコーディネーター(PC)として参画しています。2年間の全国50カ所の協議会を引き継ぎ、本年度からは12の協議会が採択され、前出のプラットフォーム事業の地域拠点(相談窓口)に設置されました。

昨年に続き、北海道介護ロボット協議会のシーズPCとして、名古屋市総合リハビリテーション事業団を全国にアピールしながら、今までの経験を生かして、よりよい議論ができるよう協議会に参加しています。本年度に各協議会は4回、全国推進委員会は3回の会議が開催予定で、開発前の着想段階から介護ロボット等の開発の方

向性について、介護現場等と開発企業等が協議し、介護現場のニーズを反映した開発の提案内容を推進します。北海道介護ロボット協議会ではこれまで整理した介護情報共有のニーズを試作品へと具現化させるべくスタートしたところです。

また、本事業以外にも介護ロボットに関する開発・普及アドバイス支援事業や、介護ロボット地域フォーラム事業の準備も始まりました。コロナ禍の新しい生活スタイル模索の中で、ロボット・ICT(情報通信)技術を活用する知恵を集めて、役に立つ介護ロボット等の開発・普及に努めていきます。



(出典)介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム構築事業事務局ホームページ

ロボットを活用した

## 上肢リハビリテーション(ロボットリハビリ)に関する臨床研究

作業療法科では、食事や着替えなどといった日常生活動作の自立を目指すリハビリに加え、脳梗塞や脳出血の後遺症として生じることの多い、手の麻痺に対する先駆的なリハビリを積極的に提供しています。その一環として、手の麻痺に対するロボットリハビリを提供しています。

使用している機器は「上肢用ロボット型運動訓練装置 ReoGo<sup>®</sup>-J」です。この機器では、リーチ動作(物に手を伸ばす動作)を反復して行うことで、肩関節や肘関節を中心とした運動機能の改善をもたらします。

手の麻痺に対してロボットを使う最たる目的は、訓練量の確保です。療法士との1対1のリハビリは診療報酬上で、実施できる時間に限りがあります。そのため、手の麻痺に対してたくさんのリハビリを実施した方が良いのに、必要十分量のリハビリが受けられずに、回復が妨げられている可能性もあります。そういった方に対して、ロボットを使うことで効果的な自主訓練が提供可能となります。

ただし、ロボットには欠点もあります。それは、食事や着替えなどの日常生活に関わる動作を直接的に訓練できないということです。そのため、療法士とのリハビリでは手の機能を生活に活かす訓練(例:箸を使う練習)を中心に実施し、自主訓練にてロボットリハビリを提供します。このように、ヒトとロボットが協業することで、手の麻痺を改善するための効果的かつ効果的なリハビリの提供につながります。

当科では、ReoGo<sup>®</sup>-Jが一般販売される前の試用段階から導入し、ロボットによる自主訓練をどのくらいの時間実施すればどの程度効果があるのか、安全性はどの程度担保されているのか、療法士によるリハビリとロボットによる自主訓練を組み合わせると、どのくらい効果的かつ効果的なリハビリが提供できるかなどといった疑問を解決する臨床研究を、下記に記載した「リハビリテーション研究基金」という制度を活用して行いました。結果として、ReoGo<sup>®</sup>-Jを使用した自主訓練は手の麻痺を改善させるのに有用であり、さらには療法士とのリハビリを組み合わせることで、より訓練効果を引き出せるということが分かりました。また、他施設とも協力しながらロボットリハビリに関する研究も行っています。今年度の診療報酬改定では、ReoGo<sup>®</sup>-Jを使用した訓練を行うことでの加算も算定可能になり、これまでの研究の成果が国に認められた瞬間でした。現在でも、他施設と協力してロボットリハビリの有効性をさらに深く研究しています。

このように機器の有効性を示す研究を行うには、多くの患者さまやスタッフの協力が必要不可欠です。しかし、地道な研究の積み重ねがリハビリの質を高め、最終的には患者さまに還元されることにつながると考えています。微力ながら、患者さまに還元できるような研究を続けていくことが、当院が目指している地域・社会貢献の一つの形だと考えています。



上肢用ロボット型運動訓練装置 ReoGo<sup>®</sup>-J

### リハビリテーション研究基金

市民のみならずからの寄付金を積み立てています。障害のある方一人一人の自立と社会参加をすすめるため、その積立金から発生する利子をもとに研究を行っています。

基金の趣旨をご理解いただき、ぜひみなさまのご協力をお願い申し上げます。

受付お問い合わせ先 総務部業務課

## (公財)東京オリンピック・パラリンピック 競技大会組織委員会出向

## 近況報告



現在、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会へ出向中の小川智樹と申します。2018年4月より車いすバスケットボール競技担当のスポーツマネージャーとして晴海トリトンスクエアで大会準備を進めています。

私は担当競技の大会運営における責任者として、国内外の関係者と緊密に連携しながら、運営・人事・予算・その他の業務管理を行い、競技大会を成功に導く役割を担っています。車いすバスケットボール競技担当のチームメンバーは私を含め5名おります。皆、初めて携わる業務に四苦八苦しながらも会話、笑顔、そしてチームワークで業務を進めています。

今年の夏に「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」が開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大によって来年の夏に延期となりました。6月10日には2021年の大会開催に向けた方針が発表されました。今後、安全・安心な環境の提供を最優先課題として、東京・日本ならではの大会をめざすこととなります。

政府の緊急事態宣言発出と共に基本的には在宅勤務、リモートワークへシフトしました。在宅勤務にシフトする前には、大会延期に伴うチーム内での業務整理(当面進めること/原則中止・停止/今後、取り組まなければならない案件/不安材料(課題)/その他)と役割分担を取り決めスタートしました。勤怠管理、健康状態の確認、また業務の進捗状況の共有などはMicrosoft Teams、Skypeを利用したリモート会議で行っています。

### 晴海トリトンスクエア



### 有明アリーナ



5月下旬、緊急事態宣言が解除されましたが、現在も感染症のリスクを軽減するため在宅勤務をベースに出勤体制を5割以内とし「新しい生活様式」に留意した体制となっています。

引き続き、大会延期に伴う見直し業務と今後に向けた新ロードマップの策定など、有明アリーナでの決勝戦を笑顔で終えることができるよう業務に取り組んでいく所存でございます。

※令和2年6月現在の状況報告  
(事務局参事(地域スポーツ振興) 小川 智樹)

## 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 対策

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 対策として事業団では下記の取り組みを引き続き実施しております。

- ①入館時のアルコールによる手指消毒
- ②附属病院および入所施設における面会の原則禁止
- ③入院・入所者と外来・通所者の利用区域等の区分け
- ④リハビリセンター出入口の開錠時間の短縮



エレベーターや訓練場所について、入院・入所者と外来・通所者で利用場所を区分けしています。

リハビリセンター正面玄関は、開錠時間を午前7時から午後7時までとさせていただきます。



### ①～④の実施期間 当面の間

(最新情報は事業団ウェブサイトに掲載しております。)

皆さまの  
ご理解・ご協力  
をお願いいたします。



## ～りはみんなプロジェクト～

また、りは(せん)みんな(なで)プロジェクトを立ち上げ、新たな取り組み等も導入します。

### 窓口の感染防止策として防護シート等の設置



なごや福祉用具プラザ窓口



瑞穂区障害者基幹相談支援センター窓口

### ビデオ会議の導入 (Zoom使用)

身体障害者補助犬の認定試験や在宅就労支援における朝礼・夕礼、事業団理事会をZoomを使用して実施しました。

Zoomを活用した会議



### その他の取り組み



#### 名古屋市 障害者スポーツセンター

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、外出自粛がつづき、体力の低下や外部との接触が少なくなってしまっている利用者さまに向けて、ツイッターを使って簡単にできる「ストレッチとレクリエーション」を動画配信しています。

#### 瑞穂区障害者 基幹相談支援センター

職員が布製マスク合計250枚を縫製!! 5月初めから、利用者さまお一人につき計3枚を手渡しや郵送でお渡ししました。

#### 材料購入・型紙準備



#### 縫製



#### 洗濯・アイロン



#### ゴム通し・完成!!

#### 裁断

